

「酸化焼成と還元焼成と炭化焼成との違いを研究する」

コース・専攻： 総合芸術コース・美術・工芸専攻 30期

グループ名 還元焼成～その不思議と魅力～

メンバー 長谷川忠志・森岡章治・岡野光子・国政裕子・吉田順子

趣旨・目的

- ・ K S C では、通常電気窯を使い酸化焼成で作品を焼成しています。今回灯油窯を使い還元焼成・炭化焼成（強還元焼成）などチャレンジしその違いを研究テーマにした。

方法

- ・ 5回の還元焼成を（2025年7月23日から12月8日）しました。
- ・ 灯油窯をK S Cの中庭に移動し、朝灯油タンクから灯油を入れ、空気調整をして、900度まで上げて還元焼成に切り替えて1250度へ（5回目は4:37で翌日10時窯出し）上げて終了します。1回目から4回目までは還元焼成時間が1時間前後で、釉薬によっては還元焼成にならず、色の変化が見られず、指導講師の赤松真木先生等に相談し指導して頂きました、その結果2時間以上の還元焼成を掛けることで、辰砂釉の綺麗な赤が発色しました。それ以外の釉薬も発色が良くなりました。

結果

- ・ 還元焼成では、還元焼成中の時間（長い方がいい）が重要な事を見ました。
- ・ 還元焼成では、最初の火入れ、還元焼成に移行する時の、灯油の調整・空気調整が難しく、特に還元焼成にいく時、煙突から黒煙が出たり、炎の出具合が微妙に影響を及ぼす事が分かりました。

☆ 個人研究と本作品の作陶を重視しました。

長谷川・辰砂釉の研究、還元焼成と炭化焼成との違いを研究。

森岡・丹波土/赤土、来待釉、木灰/土灰の研究。

岡野・辰砂釉、石灰3号釉、桜桃色釉、トルコ青釉の研究。

国政・強還元焼成（珈琲粉の再利用）、丹波土/南蛮土の研究。

吉田・スリップウェアで皿、カップの酸化焼成と還元焼成の違いを研究。

